

おとずれがわ

## 音信川沿いの温泉地再生

有限会社ハートビートプラン 泉 英明

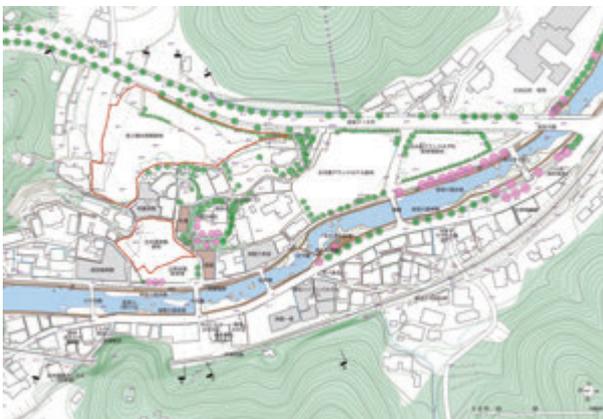
山口県、長門湯本温泉の温泉街の再生の中で、地域の個性の象徴でありアクティビティの多様性<sup>おとずれがわ</sup>をつくりだすのが、エリアの中心を流れる音信川です。

## 1. ビジョンとなる「長門湯本温泉観光まちづくり計画」の存在

150年の歴史を有する老舗ホテルの廃業を機に、その危機感から長門市は廃業ホテルの取得および解体など、さらなる温泉街の衰退の防止、跡地活用の検討に向けた取り組みを進め、2016年8月には長門湯本温泉の再生を目的とした「長門湯本温泉観光まちづくり計画」が策定され、魅力ある景観づくりのための再整備が進められています。

長門市は、観光客のニーズからかい離した総花的な行政計画になることを避けるため、温泉街に関する豊富な知見を有し、投資主体でもある星野リゾートに温泉街の整備計画（マスタープラン）の策定を委託し、その提案内容をもとに「長門湯本温泉観光まちづくり計画」は策定されました。

そこには圧倒的なランドスケープとそぞろ歩き



上：現状→下：将来像  
長門湯本温泉観光まちづくり計画より

できる温泉地の考え方の提案、全国トップ10に入る人気温泉地を目指すことが明記されています。

またそれを受けて、提案実務チームとしてデザイン会議が構成され、パートナーとなる民間事業体を探し、住民と共に民主導の公民連携で事業が推進されています。

## 2. 公民連携「長門湯本みらいプロジェクト」

音信川を舞台に生まれる豊かなシーンの数々、その中心となっているのが「長門湯本みらいプロジェクト」です。

上記のビジョンをもとに、温泉街の再生を目指して立ち上がったこの公民連携プロジェクトには、たくさんの特徴があります。投資主体である星野リゾートとの協働、マスタープランの策定。地域一体となって取り組む社会実験による、温泉街の将来像共有。また実現にあたって生じる課題への具体策を、専門的にスピーディに議論するデザイン会議の存在などです。

中でも重要なのが、旅館の若旦那や萩焼の里、三ノ瀬の跡継ぎをはじめとする地域の若手メンバーの存在。彼らが温泉街再生のためにチームとなって初めて取り組んだのは、空き家をリノベーションし、自ら開業した「cafe&pottery 音」。20年以上ぶりといわれるエリア内での新店舗のオープンは、先頭を切ってまちに動きを生み出そうとする大きなチャレンジです。360年以上の歴史をもつ萩焼の魅力を伝えるカフェ空間には、昔からこの地域に親しまれていた河川上にせり出したテラス「置き座」が出現。長門湯本らしい景観のひとつとなりました。



地元若手がオープンさせた川沿いのカフェ

そのcafeや「置き座」を含めた、ビジョンで望む「未来の温泉街」のイメージを、多くの人に体

感してもらい、実現性を検証しようと昨年からはまったのが「おとずれリバーフェスタ」です。期間限定で将来ビジョンを実際に現地で試行してみ、地域内の合意形成や新たな事業者が興味を持っていただくことにつなげていきます。

### 3. 積み重ねていく議論、検証が生む、ここにしかない川の景色

この「置き座」も、「リバーフェスタ」でたくさんの方が寛いだ「川床」も、子どもも大人も楽しんだ「飛び石」も、実はたくさんの積み重ねによって実現しています。

自然の川の流れの中で、設置場所や構造は慎重に見極めなければなりません。緻密な構造計算を重ね、時には大学の実験場に音信川の環境を再現して実験を繰り返し、また時には段ボールで再現した飛び石を会議室で飛ぶことで、“安心して楽しむことができる場”の検証が何度も重ねられました。

こうしたデザイン会議の専門家だけでなく、「実現できるかどうか、合理的にきっちり検証していくのが役目」と粘り強く検証を重ねた河川管理者（山口県）や地元施工者との連携によって、音信川の魅力を引き出す、ここにしかない風景が生まれたのです。

現場を支えるたくさんの人たちの協力によって、川床でのお茶会、お店をめぐりながら川沿いを歩く楽しみ、川辺でトークイベント…など数々のアクティビティが、温泉街を彩りました。これらのアクティビティは、県内で初となる都市・地域再生等利用区域の指定（2018年10月）を受け日常の風景となりつつあり、事業主と地域、行政がそれぞれの責任を果たしながら一体となり実現していきます。また増水時の対応や緊急連絡網の試行などの安全を確保するための取り組みも検証しています。



新たに設置された雁木広場と飛び石で子ども達のテンションがあがる



解体され再建を待つ恩湯前の川床でほっこり、橋の欄干にもスタンディングカウンター



川床はビジネスミーティングにも使われる



旅館オリジナルの朝ごはんの場所にもなる

### 4. 住む人も遊びに来る人も、そぞろ歩きを楽しめる道路

川の魅力を最大限に生かしたまちづくりは、川沿いの道路空間でも進んでいます。

交通は、地域にとっても身近な課題です。住民や商店の利便性も確保しながら、安心して散策することができる温泉街を実現するにはどんな工夫が必要か、地域で何度もワークショップが行われました。その結果、歩道と車道とを区分しない「シェアド・スペース」の考え方を盛り込んだ交通計画の検討が進められ、「リバーフェスタ」ではその検証も行われていました。

普段路上駐車が目立つ川沿いの道路空間には屋台やベンチが置かれ、さまざまなワークショップ

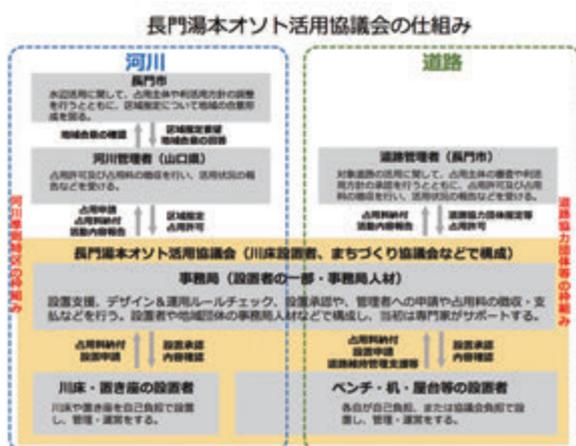
を楽しんだり、川を眺めながらのんびり寛ぐこともできます。1年目は相互通行と一方通行の両方を比較して、2年目はクルマが離合できるスペースを設け、ところどころあえてクルマの空間を狭くしてゆっくりとした運転を促すなど、人とクルマが気持ちよく共存できる空間づくりを目指しました。実験から日常へ、「リバーフェスタ」での検証結果が道路整備のプランや交通規制に活かされています。



人とクルマが共存できる環境をつくりつつ、道路にそぞろ歩きしたくなるスペースをつくる

この道路空間の利活用も、河川空間とともに「長門湯本オト活用協議会」によって運営・管理されます。放っておくと使われない、無機質な公共空間になりがちな河川や道路を「まちの中庭」と捉えてみんなで使い、みんなで手入れをするための仕組みをつくろう、というのがオト活用協議会なのです。オト活用協議会は、河川における

2020年3月に開業予定の星野リゾート「界長門」も、オト活用協議会の一員。発表された建設計画でもどんな楽しみを演出してくれるか期待がふくらみます。



河川と道路の公共区間を一括して運営管理する地域団体「オト活用協議会」

## 5. 「まちあかり」で歩きたくなる夜の温泉街を演出

温泉街は夜のそぞろ歩きの魅力がとても大切です。橋梁、樹木、川床、住吉神社の参道などの照明は、地域の安全安心や上質な夜間景観形成にとってのポイントです。あかりの色を電球色にするとどれだけ雰囲気が変わるのかをみんなで体験します。

共通のオリジナルマークの「湯本提灯」を各自で購入して軒先に飾ったり、門灯をつけたり、道に面した窓際やお店のあかりを22時まで点灯しておもてなし。また閑散期対応で今年2月に初めて試行された「おとずれがわうたあかり」は、家族や恋人があかりの風景を見ながら「金子みすゞの詩」の世界に思いをはせる静かな冬のイベントです。

これらの「あかりの風景」を今後の夜間景観の取り組みやハードデザインに反映させていきます。



オリジナルマークの湯本提灯を自らの住居や商店の前に飾る



橋、川床、住吉さんなどの地域の大切なものにあかりを当てていく

## 6. 自分たちが望む将来像の共有

リバーフェスタの一角には、これから大きく変わろうとしている温泉街を表現した模型が展示され、訪れた人々と将来像の共有がなされていました。

中心に位置する長門湯本温泉の歴史を生み出した出湯「恩湯」は、建て替えを機に行政運営を脱し、地元旅館の次世代経営者や地元人気飲食店が立ち

上げた「長門湯守株式会社」が整備・運営を担います。恩湯や飲食棟の近くには新たに雁木広場・竹林の階段も整備され、音信川により親しめる空間に生まれ変わり、四季折々のイベントなども楽しめるようになります。

長い歴史をもつ温泉街に生まれる、新しい景観のすぐそばには、住民にとっては日常であるまちなみ。見つめなおせばそこにたくさんの価値があり、何回ものワークショップで取りまとめられた「長門湯本温泉景観ガイドライン」を住民で共有することで、まちが本来もっている魅力を引き出しています。それをもとに長門市により重点地区が指定され、地元でもそれを補完する景観協定の検討が進んでいます。



将来模型やパースに多くの人が目を留めた、シンボル施設の恩湯の再建は地元若手達が担う



長門湯守を立ち上げた地元4人と設計者



官民の投資が融合する川に開かれたエリアの将来像



一人一人がまちの価値を高めるための考え方と作法を議論し景観ガイドラインとして共有

このように、ビジョンに基づいて検証項目を定め、地域自らそれらを体験しつつ、また来街者や事業者の意見も取り入れながら、その検証結果を次の事業、空間デザイン、ルールに生かしていく取り組みが進んでいます。行政はランドスケープに投資し、星野リゾートは旅館、長門湯守は恩湯と飲食店、それ以外のいくつかの事業者も遊休物件のリノベに着手するなど、官民の投資が融合し、そぞろ歩きしたくなるコンテンツが増えてきています。

これらを通じて自らの豊かな生活文化を取り戻すことにつながればいいなあと思います。

※長門湯本みらいプロジェクトサイト  
<https://yumoto-mirai.jp/>